

文喜相 大韓民國國會議長
早稻田大学 特別講演

2019. 11. 5.(火)



□第2の金大中(キム・デジュン)・小渕宣言、文在寅(ムン・ジェイン)・安倍宣言を期待します

-真の信頼、創意的解決策で未来志向的な韓日関係の修復-

こんにちは。大韓民国国会議長 文 喜相 (ムン・ヒサン) と申します。

親愛なる早稲田大学の学生のみなさん、先生方や教職員の皆様、本日お会いすることができ、非常に嬉しく存じます。そして、本日、この場に、関心を持って参加していただいた皆様に感謝の意を表したいと存じます。本日、世界的な名門、ここ早稲田大学で皆さんにお会いすることができ、とっても嬉しく、また光栄に存じます。

本日特別講演の機会を与えてくださった早稲田大学国際和解学研究所の浅野豊美所長と高麗(コリョ)大学、平和と民主主義研究所のパク・ホンギョ所長をはじめとする関係者の皆さんにも感謝申し上げます。G20国会議長会議を機に日本を訪問する中で、最も期待していた時間でした。

学生の皆様!

ここ早稲田大学は日本有数の名門教育機関という名声にふさわしく、立派な人材を輩出しました。小渕恵三総理や森喜朗総理をはじめ、戦後7名の内閣総理大臣がこの学校を卒業されました。数多くの卒業生たちが日本社会の各分野で最高のリーダーとして成長され

ました。この学校出身でいらっしゃる村上春樹は、韓国の国民が最も愛する日本の小説家です。

何よりも、私には、ここ早稲田大学が特別に思える理由があります。1943年、早稲田大学に入学して野球チーム主将を務めた金永祚(キム・ヨンジョ)選手が私の岳父です。韓国に帰国してからは、大韓民国国家代表コーチや監督を歴任し、野球教本も執筆するほど生粋の野球人でした。

残念ながら、もう、ずいぶん前にお若くして亡くなりましたが、生前は当然母校である早稲田の校歌を好んで歌っていたそうです。私の妻が何小節かを覚えていて、少しばかり歌うことができるくらいですが、「進取の精神、学の独立、永遠の理想、かがやくわれらが行手を見よや」という歌詞からも、うかがえますように早稲田大学の堂々とした学風と気性を感じられます。もう、ずいぶん前の岳父との思い出を再び思い起こすことができ、わたくしは、本日、皆さんとの出会いに、感慨深いものを感じます。

□ 韓日両国、宿命的な友人でありパートナー!

学生の皆さん!

日本にとって韓国は、そして韓国にとって日本は、どのような意味を持つ存在でしょうか。ご周知のとおり、地政学的には、最も近くて近い国であります。歴史的には1500年以上の長くて深い交流が続

いていた関係であります。文化的には、同じ語順であるウラル・アルタイ系の言語を使っており、仏教や儒教の文化も共通しています。何よりも韓日両国は、民主主義と市場経済という普遍的価値を世界で共にリードしてまいりました。とりわけ、安保においても、韓米同盟、日米同盟、韓日米協力の一軸として緊密に協力してまいりました。このように韓日両国は、韓半島と北東アジアの平和と繁栄のための重要なパートナーであり、仲間でもあります。

このような歴史的、文化的、政治的背景の中で、両国国民の相互交流は、非常に活発に行われています。年間、日本を訪問する韓国国民が8百万人であり、韓国を訪問する日本国民も3百万人に達しています。両国国民の人的交流は他国と比較にならないほど圧倒的に多いです。わたくしは、人間関係の延長線がまさに国際関係であると思います。韓日両国は、お互いに引っ越すことのできない、最も近く、長年の隣人であると同時に宿命的なパートナーであると言えるでしょう。

□韓日関係、このまま放置するのは無責任

学生の皆さん!

残念ながら最近、韓日関係に大きな試練が訪れました。

今回の日本訪問を控えて、ずっと重い気持ちでした。1965年の国交正常化以来、時折、大変な時期を経ながらも、両国間の交流と協力は持続的に拡大・発展してまいりました。しかし、現在の両

国関係は、まるで出口が見つからない迷路に閉じ込められたような気がいたします。

無信不立（信無くば立たず）という故事成語にもありますように、外交関係においても、やはり信頼は、アルファでありオメガであります。現在は、信頼の危機と言えます。

これ以上、両国関係を放置しておいてはいけません。

朝日新聞も「韓日関係をこのまま放置するのは、未来に対する無責任」と指摘しました。これに対し、わたくしは、非常に共感を覚えており、韓国の政治家としての大きな責任も感じております。

わたくしは、今の日韓の状況を見て、二つのことを思い浮かべました。第一に、1963年のドイツとフランスが締結したエリゼ条約であります。第二に、1998年に、日韓の指導者が両手を取り合って出された日韓共同宣言であります。

□ ドイツとフランスの和解、指導者たちの未来志向的リーダーシップが大きく作用

歴史的に数多くの戦争を経験し、数百年間にわたり、ライバル関係にあったドイツとフランスは1963年1月、エリゼ条約を締結しました。この条約には、これまでの敵対関係を清算し、共に協力する新しい時代を開くという内容が盛り込まれています。外交と国防、教育と文化など全ての分野にわたり、協力を強化するために国家

指導者や高官が定期的な話し合いをする枠組みを作ることに合意しました。

私たちがドイツとフランスの事例に注目しなければならない理由は、その背景に、ドイツの過去に対する真摯な謝罪とフランスの和解と許しがあったからであります。信頼に基づいた両国の和解と協力は、ついに欧州連合を誕生させる土台につながりました。特に、フランスのシャルル・ド・ゴール大統領とドイツのコンラート・アデナウアー首相が結んだエリゼ条約の精神は、その後もミッテラン大統領とヘルムート・コール首相に継承され、さらに強固なものに定着しました。まさにこれは、両国の政治指導者の未来志向的なリーダーシップが非常に重要な役割を果たした賜物でもあるのです。今、両国は、欧州連合のリーディングステート（先導する国）として、ヨーロッパでも高いステータスを持っており、日韓両国にとって、示唆に富むものが多いと思われれます。

□金大中(キム・デジュン)・小渕の日韓共同宣言、日韓両国の過去・現在・未来を見通した両国指導者の素晴らしい洞察力

皆さん、二つ目については、皆さんも十分ご存じでいらっしゃると思います。1998年10月、韓国の中大(キム・デジュン)大統領と日本の小渕首相が成し遂げた「21世紀に向けた新たな日韓パートナーシップ」であります。まさに韓日関係のルネサンス時代を切り開いたと今なお高く評価されています。この宣言の構想を練った中大

中(キム・デジュン)大統領は、先ほど申し上げたドイツやフランスの和解からインスピレーションを受けたと話したことがあります。

金大中(キム・デジュン)大統領は、いつもこの宣言が実現するにおいて、当時の小渕首相が一番の功労者だったと高く評価していました。また、小渕首相は、日本の歴代首相が躊躇し、ためらっていた韓国に対する過去の歴史問題について「痛切な反省と謝罪の意」を示す勇気と決断を見せました。これは実に画期的な出来事であったとキム大統領は後に振り返ります。

私は、金大中(キム・デジュン)大統領・小渕総理の間に形成された信頼こそ、日韓共同宣言を誕生させた土台になったのだと思います。心からの信頼を土台にして誕生した宣言なので、後続措置も迅速に行われました。

人的・物的交流協力の促進は然ることながら、両国の国防関係者の交流や情報交換を通じた安保協力の強化、対北朝鮮政策について緊密な政策協力、経済協力の強化、韓国における日本大衆文化開放、日本入国ビザの簡素化、過去史共同研究など、公式・非公式な交流が大幅に拡大されました。この「金大中(キム・デジュン)・小渕共同宣言」後に、韓日関係のパラダイムは根本的な転換点を迎え、新たな地平を切り開いたと確信いたします。

皆さん、何よりも大事なことは「21世紀に向けた新たな日韓パートナーシップ」の根底を貫く精神であります。「過去を直視しながら

未来を目指そう」ここで「過去を直視すること」は、歴史的事実をありのままに認識することであり、未来を目指すということは、ありのままに認識された事実から教訓を見出し、より良い未来を共に切り開いていこうという意味であります。これは、正に韓日両国の過去、現在、未来を見抜いた二人の指導者の驚くべき洞察力にほかなりません。現在を生きる私たちが過去に足を引っ張られ、未来へ進むことができなければ何と愚かなことでしょうか。しかし、未来を口実に過去を覆い隠そうとすれば、さらに愚かなことになると思います。

□金大中(キム・デジュン)大統領と文喜相(ムン・ヒサン)、日本に格別で深い愛情を持つ！

尊敬する皆さん！

韓日関係の新たな地平を切り開いた金大中(キム・デジュン)大統領において、日本は特別な国でした。46年前、ここ東京で拉致され、死の危機を乗り越えた事件がありました。これ以外にも6年の監獄生活や10年以上の自宅軟禁、五回にもわたり、白刃の下をくぐって生き抜きました。そして、独裁政権のあらゆる弾圧やひどい拷問にも耐えぬいて、ついに彼は、大韓民国に民主主義の花を咲かせました。全世界からその功績を認められ、ノーベル平和賞を受賞するにいたります。

金大中(キム・デジュン)大統領は、いつも自分の生命と安全を守ろうと長年にわたって努力して下さった日本の国民とメディア、そして日本政府の恩を忘れないといつも言っておりました。

また、日本が韓国の民主主義の達成において、そして、IMF経済危機から脱するにおいても、大きな支援をして下さったことに対し、いつも感謝しておりました。

皆さん、私は大韓民国の国会議長を務めるこれまで、40年余りの政治人生を歩んでまいりました。

その長い政治人生において金大中(キム・デジュン)大統領は私の政治信念の中核だと言えます。私の政治の師匠であると同時に、父でもありましたので、私も日本と日本国民に対して格別で深い愛情を持つのは当然のことです。

私は、青年時代からJC活動を通じて日本の同年代の方々と交流を深めてまいりました。政界に入った後も誰より日本との友好のために努めた知日派として活躍してきました。両国議員の最大組織である韓日・韓日議員連盟の韓国側会長も長年務め、日本の議員の先生方と多方面にわたり、親睦を深めてまいりました。だからこそ、日本に対する理解も十分であると自負しております。

去る2月、不本意ながらある外信の報道で日本の方々の心を傷つけてしまったことをよく存じ上げております。そんな訳で、すでに日本の政治家や議会指導者の方々に申し訳ないという意思を表明して

おります。日本のマスコミにも報じられましたけれども、本日、日本の未来の希望でいらっしゃる大学生の皆さんの前で、もう一度、私の発言により、心が傷ついた方々に申し訳ないということをお借り致しまして改めてお詫び申し上げたいと思います。

□韓日首相会談、もつれた糸を解くようなこと！

尊敬する皆さん！

去る10月24日、日本の安倍総理と韓国の李洛淵（イ・ナギョン）首相が会談しました。李洛淵首相は、文在寅（ムン・ジェイン）大統領の親書を安倍首相にお伝えしました。新しい令和時代の幕開けを祝うと共に、両国関係の発展を望み、台風の被害に遭われた日本国民の皆様にお見舞いを申し上げます内容となっております。わたくしも、衆参両院の議長にお見舞いを申し上げます書簡を送りいたしました。

今回の会談において、両国とも韓日両国は重要な隣国であり、現在のような困難な状況をそのまま放置してはいけないとの認識を示しました。さらに、北朝鮮の核問題においても、韓日両国と韓日米の協力が大事であるとの共通認識を形成しました。とりわけ、政府レベルのみならず、青少年をはじめとする民間交流を通じて意思疎通を続けていこうということで認識を共にしました。非常に有意義な会談だったと存じます。

もちろん、今回の会談を通じて現状を打開する目に見える成果が出るとは思いませんが、私は、この会談が現在の韓日関係において、もつれた糸を解きほぐすような、そういう役割をしてくれる発端になれると期待しております。

□韓国政府と議会、国家間の約束破っておらず、むしろ尊重

現在の韓日の葛藤は、韓国の大法院（最高裁判所）の強制徴用工判決に対する両国間の立場の違いから始まりました。その後「ホワイト国」リストから韓国除外、さらに韓国のGSOMIA終了宣言など、予期せぬ事態が相次いで起こりました。

日本政府は、韓国政府が国家間の約束を守ってないと主張しています。しかし、韓国政府は1965年の日韓請求権協定を否定したり、破棄を宣言したことはなく、むしろこれを尊重するという立場を明らかにしてまいりました。とはいえ、韓国の最高裁判所は、不法な植民地下での不法行為による慰謝料の賠償は国家間の請求権協定の適用対象には含まれないとの判決を下しました。つまり、政府間の約束とは別に、個人の請求権まで放棄させることはできないという解釈です。

韓国政府は、このような大法院（最高裁判所）の判決を三権分立の原則に基づいて尊重せざるを得ない立場にあります。

日本政府もこれまで「サンフランシスコ条約」に対して外交保護権を放棄するものであって、個人請求権の放棄ではないという点を明らかにされてきたと伺っております。

□ 本質は慰安婦被害者の心のわだかまりを解消すること

慰安婦問題も同様です。韓国政府は「2015年の韓日慰安婦合意」の破棄を宣言したことも、再交渉を求めたこともございません。しかし、被害当事者が全く同意できない合意は、そもそも現実的ではなかったと思います。慰安婦問題解決の本質は、被害当事者の尊厳と名誉を取り戻し、心の傷を癒すことにあります。特に、亡くなるまで心の中に溜まっているはずのわだかまりと恨(ハン)を解消することがとても大事です。今年の初め頃にこの世を去った慰安婦被害者の故金福童(キム・ボクドン)さんは、亡くなる瞬間まで「お金のことではない。私たちは100億でなく1000億をもらっても歴史を変えることはできない」と叫びました。彼女が望んでいたのは、心からの謝罪の一言でした。

皆さん、早稲田大学を卒業した河野洋平元衆院議長は「日韓関係において最も重要なことは人間と人間の理解であり、日本人と韓国人が相手を心から理解し、信頼できるようにならなければいけない。相手の立場を思い、尊重しなければならない。」と言い、相手の身になって考えるのを強調されました。慰安婦被害者問題や強制徴用被害者問題は、日本と韓国が共有・追求してきた人類の普遍的な価値である人権の問題です。両国の指導者が額を集めて、知

恵を出し、被害者のわだかまりを解消していけることを期待します。

□ 半世紀の間、続けてきた両国の議会交流を通じて解決策を模索する時

尊敬する皆様、

先ほど申し上げた懸案に対し、韓日両国政府はそれぞれの立場を堅持しています。そのため妥協が容易でない状況であるのもよく承知しております。とはいえ、この状況をこのまま放置すると両国国民には大きな傷と被害を与えてしまうことになるでしょう。現下の韓日の葛藤がかつての困難とは違い、危ぶまれているのには、理由があります。両国政府間の関係にとどまらず、一般国民の感情にまで入り込んでいる状況であるからであります。その深刻さは危険水準です。迅速に解決策を作らなければならないということをもう一度強調いたしたいと存じます。

まさにこのような時こそ、韓国と日本両国の議会や政治家がクリエイティブな役割を果たさなければならないと思います。議会の役割とは、両国政府間でできることは積極的に支援し、政府間でできないことであれば、それに対するクリエイティブな解決策を模索することであると思います。

戦後の韓日議会間の交流は、1972年の韓日国会議員間の懇談会から始まり、半世紀にわたる歴史を持っています。この間、韓日の葛藤を解決する非公式の外交チャンネルとして重要な役割を果たしてきました。私も、韓日関係の解決策を両国の議会が模索・支援しなければならないという使命感を持って、公式・非公式に日本

の政治家と色々と話し合いを行ってまいりました。韓日の葛藤を早期に妥結しなければならないということにみんな共感を覚えています。

□ 「新たな仕組み」 づくりに向けた立法的な努力は議会の責務

強制徴用問題について、日本政府は韓国大法院の判決を受け入れられないとし、日本企業は慰謝料の支払いを回避しています。というわけで、すべての強制徴用被害者が実質的な損害賠償を受けるのは、きびしい状況にあります。韓国大法院の判決による強制執行の時限も迫ってきています。しかし、韓国では現行法上、大統領や国会に司法府の判決に基づいた強制執行を中断させたり、延期させる権限がありません。これまで両国政府間で出されていた提案は接点を見出せず、韓日関係は、まるで平行して走る列車のような格好です。

もはや韓日関係を取り戻す「新たな仕組み」を作る立法的な努力は、議会指導者の責務であると思います。こうしたことから私は、韓国の立法的解決策を示したいと思います。韓国の国会にはすでに日帝による強制徴用被害者問題を解決するための様々な方策を盛り込んだ法案が何件か提出されています。私はこうした法律案を分析して取りまとめ、一つの案で提案したいと思います。

□ 強制徴用被害者などについて韓国の国会が先駆けて立法する

私が提案する法律案は、韓国国民の被害や心の痛みを韓国が先駆けて癒すという大前提から始めました。かつて苦痛を強いられた我が国民を国が癒さなければならない時期に至り、もはや大韓民国の国力も十分それに相応しくなったと思います。ちょうど、今年は、上海臨時政府樹立100周年になる節目の年でもあります。

法律案に具体的に盛り込まれるべき内容は、第1に、強制徴用被害者問題や慰安婦被害者問題など韓日間の葛藤を根本的かつ包括的に解決する内容でなければなりません。第2に、韓国大法院の判決を受け、すでに執行力が発生した被害者と、将来的に予想される同じ内容の判決で勝訴した被害者に「慰謝料」が支払われれば、日本企業の賠償責任が「代位返済」されたものとみなされ、賠償を受けた人に対しては民事訴訟法による「裁判上の和解」が成立したものと、みなされ、長い間続いた議論が終結する根拠が盛り込まれなければなりません。第3に、未来志向的な韓日関係に向けて韓日請求権協定などに関する全ての被害者の賠償問題を一定期限を定めて一概に解決する規定を盛り込む必要があります。当然、関連の審議委員会も設置しなければなりません。

財源の確保については、基金を設置するものの、両国の責任ある企業が賠償する1+1方式を原点から見直す方向が望ましいでしょう。基金の財源は、第1に、両国企業の寄付金でつくるが、責任ある企業だけでなく、その他の企業まで含め自主的に寄付する形があります。第2に、両国国民の民間募金です。第3に、現在残って

いる「和解・癒し財団」の残高60億ウォンを含めることであります。最後に、こうした基金を運用する財団に対して、韓国政府が拠出できる根拠条項を作らなければなりません。このように被害当事国である韓国が先駆けて立法を行い、韓日両国が対立している懸案について包括的に協議を行い、譲歩できる名分を与え、和解と協力の糸口がつかめることを期待します。

両国政府は、今すぐこの提案に対する立場を示すことは難しいかも知れません。いずれにせよ国民の代議機関である両国の議会が緊密に協議し、細かく議論して進めていかなければなりません。日本側の積極的な応えや参加も期待しております。勿論、両国国民の基準に及ばず、みんなから非難されるかも知れないこともよく分かっています。しかし、誰かは提案し、話すべきです。これもやはり私の責務であると考えます。両国国民の理解と支持が求められていると思われま

□ 東京五輪の成功祈願、韓日中での2年おきに五輪が開催される意味は大きい

尊敬する皆様！

北の核問題に対する北東アジアの国際情勢が容易ではない状況にあります。ここ2年間で南北間で4回の首脳会談がありました。米朝間では2回、中朝間では5回、露朝間では1回など、北東アジア域内諸国においては、首脳会談が頻繁に行われました。最近、こうし

たトップダウン方式の外交が日常化しています。

しかし、最も立場が似ている(like-minded country)国同士である韓国と日本で首脳会談がほとんど行われなないのは、非常に残念でなりません。韓日両国は、外交安保レベルで互いに切っても切れない関係です。特に、北東アジアの安定と繁栄、韓半島の平和プロセスを追求する上で、日本が堅持する非核・平和原則は、いくら強調してもしきれません。

さらに、2020年東京五輪があと、1年も残っていません。アジアの韓日中で2年おきに五輪が開催されるのは、前例のないことであり、大きな意味合いがあると思われます。北東アジア地域の平和と安定はもちろん、世界の平和を主導する契機につなげるべきであります。そのためにも東京五輪が必ず成功するよう祈り、そのためにも、韓日両国の協力が重要であると考えます。

□ 第2の金大中・小渕宣言、文在寅・安倍宣言を希望

皆さん、外交とは、可能性のアートで、政治は、生き物だと言われています。文在寅大統領の選挙区は釜山です。安倍総理の選挙区は下関です。今も両地域を連絡船が行き来していますが、この船の上で行われる韓日首脳会談を想像してみましょう。南北、米朝首脳会談に匹敵するくらい全世界からの注目を浴びると思います。この首脳会談を通じ、まず第1に、国交正常化の決着を付けた韓日請求権協定と1998年に金大中大統領と小渕首相とが署名した「日韓共同宣言」を尊重し、第2に、日本のホワイトリストからの韓国排除

と韓国のGSOMIA終了措置を元に戻し、第3に、両国の懸案問題（強制徴用工問題など）を立法によって根本的に解決する妥結が行われることを期待します。

韓日首脳が近いうちに会って「21世紀の新しい韓日パートナーシップ宣言」に勝る第2の金大中・小渕宣言、「文在寅・安倍宣言」が出されることを希望します。

□ 調和と尊重の気持ちで共生共栄の新時代へ進もう！

早稲田大学の学生の皆様！

9月に開催されたU-18ベースボールワールドカップの韓日戦でのある場面が世界の人々に小さな感動を与えました。9回裏、日本の投手が投げたボールが韓国選手の頭部、ヘルメットに当たりました。

下手すると感情が爆発しかねない状況だったにもかかわらず、若い二人は、帽子を取って謝罪の一礼をすると、ヘルメットを脱いで頭を下げて応えました。世界野球ソフトボール連盟は「尊重(Respect)」と題してその動画を掲載しました。韓日両国が進むべき方向を示したとの評判がたくさんありました。また、昨年、平昌冬季五輪スピードスケートで李相花選手と小平選手が見せた友情は両国国民に心穏やかな感動を与えてくれました。このような例から一昔前の世代、特に両国の政治指導者は今、いったい何をしているのかという恥ずかしい思いがいたしました。しかし、その一方で「それにもかかわらず、韓日両国の未来は明るい」という希望に満ちた思いも抱いていま

す。

最後に、日本の令和時代の開幕を改めて心よりお祝い申し上げます。「幸先の良い、平和な調和」を意味すると伺っておりますが、わたくしの心に大きく響きます。人間関係・コミュニティー・国家・国際関係の中で「調和」という言葉ほど大事な言葉があるのでしょうか。

皆さん、韓日両国がこの「調和」と「尊重」の気持ちで共存共栄の新しい時代に向けて共に進んでいくことを期待します。

ご清聴ありがとうございました。

제2의 김대중-오부치 선언, 문재인-아베 선언을 기대합니다
-진정한 신뢰, 창의적 해법으로 미래지향적 한일 관계 복원-
안녕하십니까. 대한민국 국회의장 문희상입니다.

존경하는 와세다 대학교 학생 여러분, 교수님과 교직원
여러분, 진심으로 반갑습니다. 많은 관심을 갖고 참석해주신
모든 청중 여러분께 반가움의 인사를 전합니다. 오늘
세계적인 명문 와세다 대학교에서 여러분을 만나게 되어 매우
기쁘게 생각합니다.

특별강연의 기회를 만들어 준 와세다 대학교 국제화해학 연구소
아사노 토요미 소장님과 고려대학교 평화와 민주주의연구소
박홍규 소장님을 비롯한 관계자 여러분께 감사드립니다. G 20
국회의장 회의를 계기로 일본을 방문하는 과정에서 가장
기대되었던 일정이었습니다.

와세다 대학 학생 여러분!

이곳 와세다 대학은 일본의 명문 교육기관이라는 명성에 걸맞게
훌륭한 인재를 배출한 곳입니다. 오부치 게이조, 모리 요시로
총리님을 비롯해 전후 7명의 내각총리대신을 배출하였습니다.

수많은 졸업생들이 일본 사회의 각 분야에서 최고의 리더로 성장했습니다. 와세다 대학 출신인 무라카미 하루키 선생은 한국인이 가장 사랑하는 일본의 작가이기도 합니다.

무엇보다도 나에게서는 이곳 와세다 대학이 더욱 특별하게 다가올 수밖에 없는 이유가 있습니다. 1943년 와세다 대학에 입학해 야구팀 주장을 했던 김영조 선수가 바로 나의 장인어른입니다. 한국으로 돌아오신 뒤에는 대한민국 국가대표 코치와 감독을 역임하셨고 야구교본도 집필할 정도로 뺏속까지 야구인이셨습니다.

오래전 젊은 나이에 작고하셨지만, 생전에는 당연히 모교의 교가를 즐겨 부르셨다고 합니다. 나의 아내가 몇몇 소절을 기억해 따라 부를 수 있을 정도입니다. “진취의 정신, 학문의 독립, 영원한 이상, 빛나는 우리의 발걸음”이라는 가사들에서 와세다 대학의 당당한 학풍과 기상을 느끼게 됩니다. 오래 전 장인어른의 추억을 떠올릴 수 있어서, 오늘 여러분과의 만남이 더욱 뜻깊고 소중하게 다가옵니다.

□ 한일 양국, 숙명적인 친구이자 동반자이며 파트너

학생 여러분!

일본에게 한국은, 한국에게 일본은 어떤 의미입니까. 지형학적으로는 가장 가깝고도 가까운 나라입니다. 역사적으로는 1,500년 이상의 길고도 깊은 교류가 이어지는 관계입니다. 문화적으로 같은 어순을 사용하는 우랄 알타이 계통의 언어를 쓰고 있으며, 불교와 유교의 문화도 공유하고 있습니다.

무엇보다도 한일 양국은 민주주의와 시장경제라는 보편적 가치를 선도해왔습니다. 특히 안보에 있어서도 한미동맹, 미일동맹, 한미일 공조의 한축으로서 긴밀히 협조해 왔습니다. 한일 양국은 상호간 한반도와 동북아의 평화와 번영을 위한 중요한 파트너이자 동반자입니다.

이러한 역사적, 문화적, 정치적 배경 속에서 양국 국민의 상호 교류는 그 얼마나 활발하게 이루어지고 있습니까. 한해 일본을 방문하는 한국 국민이 8백만 명이고, 한국을 방문하는 일본 국민도 3백만 명에 달합니다. 양국 국민의 인적 교류는 타국과 비교되지 않을 정도로 압도적입니다. 인간관계의 연장이 곧 국제관계라고 생각합니다. 한국과 일본 양국은

서로 이사 갈 수 없는, 가장 가깝고 오랜 이웃이자 친구인 동시에 파트너가 될 수밖에 없습니다. 숙명입니다.

□ 한일관계, 이대로 방치하는 건 무책임한 일

와세다 대학 학생 여러분!

안타깝게도 최근 한일관계에 커다란 시련이 닥쳐왔습니다. 이번 일본 방문을 앞두고 무거운 마음을 내려놓을 수 없었습니다. 1965년 국교정상화 이후 간혹 어려운 시기를 거치면서도 양국간 교류와 협력은 지속적으로 확대되고 발전해왔다고 생각합니다. 그러나 현재의 양국관계는 출구를 찾지 못하는 미로에 갇힌 것 같습니다.

무신불립(無信不立)이라고 했습니다. 외교관계에 있어서 신뢰는 관계의 시작이자 끝입니다. 신뢰의 위기입니다. 더 이상 방치해서는 안됩니다. 아사히 신문도 ‘한일관계를 이대로 방치하는 건 미래에 대한 무책임’이라고 지적한 바 있습니다. 크게 공감하며 한국의 정치인으로서 무거운 책임감도 느낍니다.

나는 지금의 상황을 바라보며 두 가지 장면을 떠올렸습니다. 하나는 1963년 멀리 유럽의 독일과 프랑스입니다. 또 하나는

바로 20여 년 전 두 손을 맞잡은 한일 양국의 두 지도자입니다.

□ 독일·프랑스 화해, 지도자의 미래지향적 리더십이 큰 작용

역사적으로 여러 차례의 전쟁을 겪으며 수 백 년간 앙숙관계에 있던 독일과 프랑스는 1963년 1월 엘리제 조약을 체결했습니다.

이 조약에는 상호간 적대관계를 청산하고 협력의 새 시대를 연다는 내용이 담겨있습니다. 외교와 국방, 교육과 문화 등 전 분야의 협력을 강화하며, 이를 위해 국가지도자와 고위 관료들이 정기적인 대화의 틀을 만드는데 합의했습니다.

우리가 독일과 프랑스의 사례를 주목해야 하는 이유는, 그 핵심에 독일의 과거사에 대한 진정성 있는 사죄와 프랑스의 화해와 용서가 있었기 때문입니다.

신뢰를 바탕으로 맺어진 양국의 화해협력은 유럽연합을 탄생시키는 토대가 되었습니다. 특히 샤를 드 골 프랑스 대통령과 콘라트 아데나워 독일 총리가 맺었던 엘리제 조약의 정신은 이후에도 미테랑 대통령과 헬무트 콜 총리로 이어지며 더욱 빛을 낼 수 있었습니다.

양국 정치지도자들의 미래지향적인 리더십이 매우 중요한 역할을

한 것입니다. 지금 유럽연합의 리딩 스테이트(leading state)로서
굴건한 입지를 가지고 있는 두 나라의 위상은 한일 양국에게
시사하는 바가 크다고 생각합니다.

□ 김대중-오부치 선언, 한일 양국의 과거·현재·미래 꿰뚫은
두 지도자의 놀라운 통찰력과 혜안

여러분, 또 하나의 장면은 여러분이 충분히 예상할 수
있으리라 생각합니다. 1998년 10월 한국의 김대중 대통령과
일본의 오부치 총리가 이루어낸 '21세기의 새로운 한일
파트너십 선언'입니다. 한일관계의 르네상스 시대를 열었다고
평가합니다. 이 선언을 구상한 김대중 대통령은 앞서 얘기한
독일과 프랑스의 화해에서 영감을 얻었다고 했습니다.

김대중 대통령은 늘 이 선언이 성사되는데 오부치 총리가 가장
큰 공로자였다고 높이 평가했습니다. 또한 오부치 총리가 일본의
역대 총리가 주저하고 꺼려하던 한국에 대한 과거사 문제에
대해서 '통절한 반성과 사죄의 뜻'을 표시하는 용기와 결단을
보여주었고, 이는 참으로 획기적인 사건이었다고 회고했습니다.

나는 두 지도자 사이에 형성된 신뢰가 김대중-오부치
선언을 탄생시킨 배경이라고 생각합니다. 진심어린 신뢰를

바탕으로 이뤄낸 선언이기에 후속조치도 신속했습니다.

인적 물적 교류협력 촉진은 물론이며, 국방 관계자들의 교류와 정보 교환을 통한 안보 협력 강화, 대북정책에 관한 긴밀한 정책 공조, 경제 협력 강화, 일본 대중문화의 한국 시장 진출 개방, 일본 입국비자 간소화, 과거사 공동 연구와 같은 공식 또는 비공식적 교류의 확대 등이 총망라되었습니다.

김대중-오부치 선언 이후 한일관계의 패러다임은 근본적인 전환점을 맞이하였으며, 새로운 지평을 열었다고 확신합니다.

여러분, 무엇보다도 중요한 것은 '21세기의 새로운 한일 파트너십 선언'을 꿰뚫고 있는 정신입니다. '과거를 직시하면서 미래를 지향하자', 과거를 직시한다는 것은 역사적 사실을 있는 그대로 인식하는 것이고, 미래를 지향하는 것은 인식된 사실에서 교훈을 찾고 보다 나은 미래를 함께 열어가자는 것입니다.

한일 양국의 과거, 현재, 미래를 꿰뚫은 두 지도자의 놀라운 통찰력과 혜안이 아닐 수 없습니다. 현재를 사는 우리가 과거에 발목을 잡혀 미래로 못 나가면 어리석은 일이 될 것입니다. 그러나 미래를 핑계로 과거를 덮으려 한다면 더욱 어리석은 일이 될 것이라고 생각합니다.

□ 김대중 대통령과 문희상, 일본에 각별하고 깊은 애정 있어

존경하는 여러분!

한일관계의 새로운 지평을 열었던 김대중 대통령에게 일본은 특별한 나라였습니다. 46년 전, 이곳 도쿄에서 납치되어 죽음의 고비를 넘겼던 사건이 있었습니다. 이외에도 6년의 감옥 생활과 10년 이상의 가택연금, 다섯 차례의 죽을 고비를 넘겼습니다. 독재정권의 온갖 탄압과 모진 고문을 참아내며 기어이 대한민국에 민주주의의 꽃을 피웠습니다. 전 세계가 그 공로를 인정해 노벨평화상을 수여했습니다.

김대중 대통령은 늘 자신의 생명과 안전을 지키고자 긴 세월 동안 애써 준 일본의 국민과 언론, 정부의 은혜를 잊지 않겠다고 말씀하셨습니다. 또한 일본이 한국의 민주주의 쟁취와 IMF 시기 경제위기를 벗어나는데 큰 지원을 해준데 대해 항상 감사해하셨습니다.

여러분, 나는 대한민국 국회의장을 맡고 있는 지금까지 40여 년의 정치인생을 걸어왔습니다. 그 정치인생에 있어서 김대중 대통령은 내가 갖고 있는 정치신념의 처음이자 마지막이라고 말할 수 있습니다. 나의 정치적 스승이자 아버지였습니다. 나

역시 일본과 일본 국민에 대해 각별하고 깊은 애정을 가지는 것은 당연한 일입니다.

나는 청년시절부터 JC 활동을 통해 일본의 동년배들과 깊은 교류가 있었습니다. 정치를 시작한 후에도 그 누구보다 일본에 우호적으로 활동했던 지일파로 활동했습니다.

양국 의원들의 최대 조직인 한일의원연맹의 한국측 회장도 다년간 역임하며 일본측 의원들과 다양하고 깊은 교류를 했습니다. 그만큼 일본에 대한 이해도도 충분하다고 자부합니다.

지난 2월 본의 아니게 어느 외신의 보도로 일본 분들의 마음을 아프게 했다는 것을 인식하고 있습니다. 이와 관련하여 이미 일본의 정치인들과 의회지도부에 미안하다는 뜻을 밝힌 바 있습니다. 일본 언론에도 보도 되었습니다.

오늘 일본의 미래인 대학생 여러분 앞에서, 다시 한 번 나의 발언으로 인해 일본 분들의 마음을 아프게 하였다면 미안하다는 뜻을 전하고 싶습니다.

□ 한일 총리 회담, 얽힌 실타래의 한쪽 실 끝 찾은 것

존경하는 여러분!

지난 10월 24일 일본의 아베 총리와 한국의 이낙연 국무총리가 만났습니다. 이낙연 총리는 문재인 대통령의 친서를 아베 총리에게 전했습니다.

레이와시대의 개막을 축하하고 양국관계의 발전을 희망하며, 태풍피해를 당한 일본국민을 위로하는 내용이 담겨있었습니다. 태풍피해와 관련해서는 나 역시 참의원, 중의원 두 분 의장님께 위로 서신을 보낸 바 있습니다.

이번 총리회담에서 양국 총리 모두 한일 양국은 중요한 이웃국가이며 한일관계의 이런 어려운 상태를 계속 방치할 수 없음을 강조했습니다.

또한 북핵문제와 관련해 한일과 한미일 공조가 중요함을 공유했습니다. 특히 당국뿐만 아니라 청소년과 민간교류를 통한 의사소통을 지속해 나가자는데 인식을 같이했습니다. 매우 의미있는 회담이었다고 생각합니다.

물론 이번 총리 회담을 통해 한일관계를 풀어갈 당장의 가시적인 성과가 나올 것이라 생각하지는 않습니다. 그러나 나는 도저히 풀릴 것 같지 않던 얽힌 실타래의 한쪽 실 끝을 찾았다는 표현으로 기대를 표하고자 합니다.

□ 한국 정부와 의회, 국가 간 약속 어기지 않았고 존중

지금의 한일갈등은 한국 대법원의 강제징용 판결에 대한 양국간 입장 차이에서 촉발되었습니다. 이후 일본의 화이트리스트 한국 배제, 한국의 GSOMIA 종료 선언 등의 예상치 못했던 일들이 이어졌습니다.

일본은 우리 정부가 국가간 약속 지키지 않는다고 주장하고 있습니다. 그러나 우리 정부는 1965년 한일청구권협정을 부인하거나 파기를 선언한 바가 있지 않고, 이를 존중한다는 입장을 밝혀왔습니다.

다만, 한국 대법원은 불법적 식민지배에 의한 불법행위에 따른 위자료배상은 청구권협정의 적용대상에 포함되지 않는다고 판결했습니다. 즉 정부간 약속과는 별개로 개인의 청구권까지 포기시킬 수는 없다는 해석입니다.

한국 정부는 이러한 대법원의 판결을 삼권분립 원칙에 따라 존중한다는 입장을 가지고 있는 것입니다. 일본 정부도 그동안 ‘샌프란시스코협정’에 대해 외교보호권을 포기하는 것이지 개인 청구권의 포기가 아니라는 점을 밝혀 온 것으로 알고 있습니다.

□ 본질은 위안부 피해 할머니 마음속 응어리 풀어주는 것

위안부 문제도 마찬가지입니다. 한국 정부는 ‘2015년 한일 위안부 합의’의 파기를 선언한 적도 없고 재협상을 요구하지도 않았습니다. 그러나, 피해 당사자들이 전혀 동의하지 않는 합의는 시작부터 현실적이지 못했다고 생각합니다. 위안부 문제 해결의 본질은 피해 당사자들의 존엄과 명예를 회복하고, 상처를 치유하는 것입니다.

특히 돌아가실 때까지 남아있을 마음속 응어리와 한을 풀어드리는 것이 매우 중요합니다. 올해 초 세상을 떠난 위안부 피해자 故김복동 할머니는 돌아가시는 순간까지도 “돈이 문제가 아니다. 우리는 100억이 아니라 1000억을 쥐도 역사를 바꿀 수가 없다”고 절규하셨습니다. 그분이 원했던 것은 ‘진정성 있는 사과’ 한마디였습니다.

여러분, 와세다 대학을 졸업한 고노 요헤이 전 중의원 의장께서는 “한일관계에서 가장 중요한 것은 인간과 인간의 이해이며, 일본인과 한국인이 서로에 대해 진심으로 이해하고 신뢰할 수 있어야 하며, 상대의 입장을 생각하고 존중할 수 있어야 한다”고 하셨습니다.

역지사지(易地思之)의 자세를 강조한 말입니다. 위안부 피해자와 강제징용 피해자의 문제는 일본과 한국이 공유하며 추구해온 인류 보편적 가치인 인권의 문제입니다. 양국 지도자들이 머리를 맞대고 지혜를 모아 피해자들의 응어리를 풀어주기를 기대합니다.

□ 반세기 이어온 양국 의회교류 통해 해법 모색할 때

존경하는 여러분!

앞서 말씀드린 현안에 대한 한일 양국 정부의 입장은 서로 전고합니다. 때문에 타협이 쉽지 않은 상황이라는 것도 잘 알고 있습니다. 그렇다고 이 상황을 이대로 계속 방치한다면 양국 국민에게 큰 상처와 피해를 주게 될 것입니다. 지금의 한일 갈등이 이전의 어려움과는 다르게 가장 위태롭게 보이는 이유가 있습니다.

양국 정부 간 관계에 그치지 않고 국민대중의 감정에까지 파고드는 상황이기 때문입니다. 그 심각성이 위험수준입니다. 신속하게 해법을 마련해야 된다는 점을 재차 강조합니다.

바로 이 시점에서 한국과 일본 양국 의회와 정치인들이 창의적인 역할을 도모해야 한다고 생각합니다. 의회의 역할은 양국 정부 간 할 수 있는 일은 적극 지원하고, 정부 간 할 수 없는 일이라면, 그에 대한 창의적인 해법을 찾는 것이라고 생각합니다.

전후 한일의회외 교류는 1972년 시작된 한일국회의원 간담회를 시작으로 반세기의 역사를 가지고 있습니다. 그동안 한일 갈등을 해결하는 비공식 외교라인으로서 중요한 역할을 해왔습니다.

나 역시 한일관계의 해법을 양국 의회가 모색하고 지원해야 한다는 사명감을 가지고, 공식·비공식 일정을 통해 일본의 정치인들과 많은 대화를 나눴습니다. 한일 갈등을 조속히 타결해야 한다는데 모두가 뜻을 같이 하고 있었습니다.

□ '새로운 제도' 마련 입법적 노력은 의회의 책무

강제징용 문제와 관련하여 일본 정부는 우리 대법원의 판결을 수용할 수 없다고 하고, 일본 기업은 위자료 지급을 회피하고 있습니다. 이런 이유로 전체 강제징용 피해자들이 실질적인 손해배상을 받기 어려운 상황입니다.

한국의 대법원 판결에 따른 강제 집행 시한도 다가오고 있습니다. 그러나 한국 대통령이나 국회는 현행법상 사법부의 판결에 따른 강제집행을 중단하거나 연기시킬 권한이 없습니다. 그동안 양국 정부 간에 오간 제안들은 접점을 찾지 못하고 있습니다. 한일 관계는 나란히 달리는 열차의 형국입니다.

이제 한일관계를 회복할 수 있는 '새로운 제도'를 마련하는 입법적 노력은 의회지도자들의 책무라고 생각합니다. 이러한 이유로 나는 한국의 입법적 해법을 내놓으려고 합니다.

한국 국회에는 이미 일제 강제징용 피해자 문제를 해소하기 위한 다양한 방안을 제시하는 법안들이 여러 건 제출되어 있기도 합니다. 나는 이러한 법안들을 분석하고 종합하여 단일안으로 제안하려고 합니다.

□ 강제징용 피해자 등과 관련 한국 국회가 선제적 입법하겠다

제안하는 법안은 한국 국민의 피해와 아픔을 한국이 선제적으로 풀어야 한다는 대전제에서 출발하겠습니다. 과거에 우리 국민이 겪었던 고통을 국가가 나서 치유하며 나가야 할 때가 되었고, 대한민국의 국력도 충분하다고 생각합니다. 마침 올해는 상해 임시정부수립 100주년이 되는 해이기도 합니다.

법안이 구체적으로 담아야 할 내용은 첫째, 강제징용 피해자와 위안부 피해자 문제 등 한일 사이의 갈등을 근본적이고 포괄적으로 해소하는 내용이어야 합니다.

둘째, 한국 대법원의 판결에 따라 이미 집행력이 생긴 피해자들과 향후 예상되는 동일한 내용의 판결에서 승소한 피해자들에게 '위자료'가 지급된다면 일본 기업의 배상책임이 '대위변제'된 것으로 간주되고, 배상을 받은 사람들에게 대해서는 민사소송법에 따른 '재판상 화해'가 성립된 것으로 간주함으로써 오랜 논란이 종결되는 근거를 담아야 하겠습니다.

셋째, 미래지향적인 한일관계를 위하여 한일청구권 협정 등과 관련된 모든 피해자들의 배상문제를 일정한 시한을 정해 일괄적으로 해결하는 규정을 담아낼 필요가 있습니다.

당연히 이와 관련한 심의위원회를 두어야 하겠습니다.

재원마련에 대해서는 “기금”을 조성하되, 양국의 책임 있는 기업이 배상하자는 1+1 방식을, 원점에서 재검토 하는 방향이 바람직합니다. 기금의 재원은 첫째 양국 기업의 기부금으로 하되, 책임 있는 기업뿐만 아니라 그 외 기업까지 포함하여 자발적으로 하는 기부금 형식입니다.

둘째, 양국 국민의 민간성금 형식을 더하겠습니다. 셋째, 현재 남아있는 ‘화해와 치유 재단’의 잔액 60억 원을 포함하는 것입니다. 마지막으로 이러한 기금을 운용하는 재단에 대해 한국정부가 출연할 수 있는 근거 조항을 만들어야 하겠습니다.

이렇게 피해 당사국인 한국의 선제적 입법을 통해 한일 양국이 갈등현안에 대해 포괄적으로 협의하고 양보할 수 있는 명분을 제공하고, 화해협력의 물꼬를 틀 수 있기를 기대합니다.

당장 이러한 법안 제안에 대해 양국 정부는 입장을 내놓기 어려울 수도 있습니다. 결국 국민의 대의기관인 양국의회가 긴밀하게 협의하며 세심하게 논의하고 추진해야 할 사안입니다. 일본 측의 적극적인 화답과 동참도 기대합니다.

물론 양국 국민의 눈높이에 못 미쳐 모두에게 비난을 받을 수도 있다는 것을 알고 있습니다. 그러나 누군가는 제안하고 말해야 합니다. 이 또한 나의 책무라고 생각합니다. 양국 국민의 전향적인 이해와 지지가 필요하다고 생각합니다.

□ 도쿄올림픽 성공기원, 한중일 2년 단위 개최 의미 커

존경하는 여러분!

북핵문제와 관련한 동북아의 국제정세가 녹록치 않습니다. 이와 관련하여 지난 2년 동안 남북 간에 네 차례의 정상회담이 있었습니다. 북미 간에는 두 차례, 북중 간에는 다섯 차례, 북러 간에는 한차례 등 동북아 역내 국가들 간의 정상회의가 빈번하게 이루어졌습니다. 최근 이러한 탐다운 방식의 외교가 일상화되고 있는 상황입니다.

그런데 가장 유사입장국(like-minded country)인 한국과 일본이 정상급 회담을 거의 갖지 못하고 있는 것은 매우 안타까운 일이 아닐 수 없습니다. 한일 양국은 외교안보 차원에서 상호간에 떼려야 뗄 수 없는 관계입니다.

특히 동북아의 안정과 번영·한반도 평화프로세스를 추구하는데

있어서, 일본이 전지하는 비핵·평화 원칙은 아무리 강조해도 지나치지 않다고 생각합니다.

더욱이 2020년 도쿄 올림픽이 1년도 남지 않았습니다. 사상 유례없이 아시아의 한·중·일이 2년 단위로 연이어 올림픽을 개최하는 것은 큰 의미가 있다고 생각합니다.

동북아지역의 평화와 안정은 물론 세계 평화를 주도하는 계기가 되어야 하겠습니다. 이를 위해서도 도쿄 올림픽이 반드시 성공하기를 기원하며, 한일 양국의 협력이 중요하다고 생각합니다.

□ 제2의 김대중-오부치 선언, 문재인-아베 선언을 희망

여러분, 외교는 가능성의 예술이고 정치는 살아있는 생물이라고 했습니다. 문재인 대통령의 지역구는 부산입니다. 아베 총리의 지역구는 시모노세키입니다. 현재도 두 지역을 오가는 연락선이 있는데, 이 배 위에서 이루어지는 한일정상회담을 상상해봅시다. 남북, 북미 정상회담에 버금가는 전 세계의 주목을 받을 것입니다.

그 정상회담을 통해 첫째, 1965년 국교정상화를 매듭지었던 한일청구권 협정과 1998년 김대중-오부치 한일 파트너십 공동선언의 정신을 재확인하고, 둘째, 일본의 화이트 리스트

한국 배제와 한국의 지소미아 종료 조치를 원상복구하며, 셋째, 양국의 현안문제(강제징용 피해자 문제 등)를 입법을 통해 근본적으로 해결한다는 대타결이 이뤄지기를 기대해봅니다.

한일 정상이 빠른 시일 안에 만나 '21세기의 새로운 한일 파트너십'을 능가하는 제2의 김대중-오부치 선언, '문재인-아베 선언'이 이뤄지기를 희망합니다.

□ 조화와 존중의 마음으로 공생공영의 새 시대로 나아가자

와세다 대학 학생 여러분!

지난 9월 열렸던 야구 세계청소년선수권 대회 한일전의 한 장면이 세계인에게 작은 울림을 주었습니다. 9회 말 일본 투수가 던진 볼이 한국 선수의 머리 쪽으로 날아와 헬멧에 맞았습니다. 자칫 감정이 폭발할 수도 있었던 상황에서 어린 두 선수는 모자를 벗고 서로에게 고개를 숙여 사과를 하고 담례를 했습니다.

세계야구소프트연맹은 '존중(Respect)'이라는 제목을 달아 동영상을 게재했습니다. 한일 양국이 나아가야 할 방향을 보여줬다는 평가가 많았습니다. 또한 지난해 평창 동계올림픽 스피드 스케이팅에서 보여준 이상화 선수와 고다이카 선수의

우정은 양국 국민에게 잔잔한 감동을 주었습니다.

이런 모습들을 보면서 기성세대, 특히 양국의 정치지도자들은 지금 무엇을 하고 있는가 부끄러운 생각이 들기도 했습니다. 한편으로는 '그럼에도 불구하고 한일 양국의 미래는 밝다'라는 희망적인 생각도 가져봅니다.

마지막으로 일본의 레이와 시대 개막을 다시 한 번, 진심으로 축하드립니다. '상서롭고 평화로운 조화'라는 뜻이 마음에 크게 와 닿습니다. 인간관계, 공동체, 국가, 국제관계 속에서 조화라는 말처럼 중요한 말이 또 있을까 합니다.

여러분, 한일 양국이 조화와 존중의 마음으로 공생공영의 새로운 시대를 향해 함께 나아가길 기대합니다. 경청해주셔서 감사합니다.